

- 1) 発表形式：ポスター
- 2) カテゴリ：17
- 3) 演題名：総社市の地域支援事業におけるリハビリテーション専門職（アドバイザー）の役割
- 4) 筆頭演者氏名：大塚 啓介\*（作業療法士）  
共同演者氏名：寺中 雅智\*\*（理学療法士）
- 5) 作業療法士
- 6) 所属施設：株式会社アール・ケア 訪問看護ステーションママック総社\*、社会医療法人全仁会 倉敷老健\*\*

7) 抄録：

（はじめに）

総社市の地域支援事業の派遣依頼から、アドバイザーとして総社市の支援を行うことでの課題や総社市側のオーダーを踏まえ、総社市を支援するリハ職の有志で「総社市アドバイザー連絡会議」を実施することとなった。

（課題）

現状の派遣依頼は、地域ケア個別会議の参加が主である。地域ケア個別会議を充実させるためには、行政側、アドバイザー側相互のスキルアップに繋がる体制が整っておらず、有効的な運用ができていない状況が課題として考えられた。

（展望）

「総社市アドバイザー連絡会議」では、地域ケア個別会議の充実を始めとする議題が設けられた。これらの検討内容を総社市へ提案していくことで、地域支援事業の充実に繋がるのではないかと考える。また、「総社市アドバイザー連絡会議」でのリハ職同士の繋がりによって、支援するスキルも向上していくものであると考える。

（まとめ）

市町村の地域支援事業も地域リハビリテーション活動支援事業も発展途上である。より良くしていくためには、市町村と連携し、市町村のオーダーや期待に応えていけるよう、リハ職相互の情報を共有する体制を整えていく必要がある。そのひとつとして、「総社市アドバイザー連絡会議」がその役を担っていければと考える。このように、派遣依頼に対応するだけでなく、地域支援事業を包括的に支援していくことが総社市におけるアドバイザーの役割であると考えられる。